

第 56 回 道（新春学長メール Vol.2）

おはようございます。
長崎大学人 河野茂です。

昨日は、仕事始め式を行いました。
皆さんの元気な顔を拝見し、嬉しく思いました。
キャンパスを歩く学生さんの姿はまばらですが、白い息を吐き早朝より図書館やグラウンド
に向かう若い姿を見ると大きな希望が湧いてきます。
大学という場所は、常に若いエネルギーに満ち溢れている場所だとあらためて思いました。

さて、書道の話をしてします。
書道を語るほどの腕前や経験はありませんが、書道は「書法」「書芸」とは言わず、「書」
の「道」と言います。
なぜなのでしょう。他にも日本文化には、「茶道」「華道」があり、「柔道」「剣道」という
武道があります。
日本人にとって「道」は、「road」でも「way」でも「street」でもなく、もっと精神的な深
みを持つように感じます。

50 代に再開した私の書道は、オーソドックスに、楷書→行書→草書の順番に習ってゆきま
した。
一般的には、時代別に 5 つの書体があり、新しい書体（楷書（かいしょ））から習い始めて、
古い書体（篆書（てんしょ））へと進む場合が多いようです。
つまり、書道は、歴史をさかのぼる要素があるようです。道をさかのぼりながら、先人の思
いを知る行程でもあると思います。

また、書道をやりながら、私自身の個人の時間は未来へと進むわけです。
教授、医学部長、病院長、理事、学長と、大学人の進む道として役割が変化してゆきます。
私的な面でも、子供が巣立ち、独立し、孫ができ…と、人生を歩む道の周りの環境は変化し
てゆきます。

つまり、私にとって、書は、過去と未来をつなぐもので、過去と未来の狭間において、無心
に筆を動かすことのようにです。
過去の道、未来の道が見渡せる場所が書道なのかもしれません。日本人は、「道」に稽古や
鍛錬の伴う人間の成長を投影させます。
スポーツのような相手に対する勝ち負けではなく、自分自身に対する精神修養が「道」なの

かもしれません。

私の個人的な大学人としての約半世紀にも及ぶ長い道も終わりに近づきつつあります。一学生から学長までの長い「道」により、自分自身が鍛えられ、変化したことは間違いないでしょう。まさに、人間形成の道だったと思います。

しかしながら、「長崎大学」としての組織としての「道」は、これからも続きます。「長崎大学道」という言葉はありませんが、長崎大学人とは様々な変化に耐えうるように自ら鍛錬し、成長を目指す人だと思っています。

みなさんには、それぞれの道があると思います。自分自身が育てられた大切な道があると思います。みなさんのそれぞれの「道」と長崎大学の「道」が、うまく交差したり、並走したりすることができれば、学長としては、大変嬉しいことです。

今年も、皆さんがそれぞれの「道」を大切にしながら過ごすことを願っています。ぜひ、みなさんの「道」について、メールして頂ければと思います。お気軽にどうぞ。